

「シジュウカラの卵が消えた! (2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

「卵泥棒」の犯人を特定する為に、過去の画像を探ってみた。画像をチェックして驚いた。「犯人」はシジュウカラ自身だった。夜中に、お腹の下をゴソゴソ始めて、卵の殻をくわえた。そのままバリバリ食べてしまったのだ。



「5月14日深夜の巣箱内の様子」

シジュウカラ(母親)が卵の殻をくわえている。



その後、殻をバリバリ食べてしまった。

孵化後の卵の殻を親鳥が食べるのは、シジュウカラでは普通に見られる。しかし、抱卵中の卵を食べる行動は初めて見た。何かの衝撃で割れてしまったのか、無精卵と気づいて放棄したのかは、不明である。

以前飼っていたジュウシマツ(十姉妹)にも食卵行動が見られた。一度卵の味を覚えると、自分が産んだ卵なのに、全部食べてしまうこともある。それを防止する為に、ペットショップでは「ギラン(擬卵)」というものも売っている。本物の卵としばらくの間「すり替えて」、親鳥に卵を割れないことを学習させるのだ。卵の殻に唐辛子をつめる方法も試した。



「飼い鳥用のギラン」

十姉妹用、セキセイインコ用など、いくつかの大きさのものが市販されている。産んだ日がちがう複数の卵の、抱卵期間を揃える為にも使用される。

幸い、このシジュウカラが食卵行動を続けることはなく、食べた卵は最初の1個だけだった。その後9個の卵を温め続け、5月23日~24日に孵化した。